

# パワハラで自殺した仲間の死をなかつたことにさせるな！

## 団結を奪い返し、労働者こそ職場の主人公になろう！

國井庄徳（仙台東南支部普通郵便分会）  
神田広猛（仙南支部角田分会）

高橋弘二（仙台東南支部集配分会）  
谷和司（仙台東南支部集配分会）

2016年8月27日発行

ビラを読んだ感想や職場についての意見をお寄せください。

E-mail miyagicentr@yahoo.co.jp



新仙台郵便局で働くみなさんへ。普通郵便部の社員Aさんが先月7月27日に自殺しました。同じ職場の労働者として、Aさんの思いにきちんと応えるべく、みなさんに訴えたいと思います。

### 〈なぜ自殺したのか？〉

Aさんは以前から「上司からパワハラを受けている」と、社内に設置されている内部通報窓口に訴えていました。その上司からは「おいつ、A！仕事をさつさとやれ！」と、プレッシャーをかけられ続けていたのです。

しかし、何らの改善もなく、半年ほどの休職に追い込まれました。今年の4月に軽減勤務で復帰しましたが、明らかに元気がなく、職場のみんなが心配するほどでした。パワハラ上司の態度も変わらないうえに、フルタイム勤務に戻されそうだと、Aさんは悩んでいたようです。8月からは郵便ネットワークの再編があり、現場がさらに厳しくなるのは必至でした。

そんな状況に絶望して、自殺という究極に悲しい決断をしてしまったのではないかと思われれます。

### 〈仲間の死を知らせない

### 当局を許すな！〉

当局はこの事件を大きくさせないようにしています。始業時ミーティングにおいても、たった一回報告したのみです。なので、同じ部内でも聞いていない人も多く、他の部の人はほとんど知りません。

貴い命が奪われたというのに、職場では何もなかったかのように、「営業やれ！」「事故を起こすな！」と繰り返されています。会社にとっては、「人の命より会社の利益の方が大事」なのであり、人が死んでも関係ないのです。まさに「ブラック企業」です。態度を何ら改めることもなく、何もなかったことのようにしているとは…。ふざけるな！

## へAさんの死は

### 民営化の結果だ！

Aさんの力になれなかったことをとても悔しく思います。心配しているだけではだめだったのです。

しかし、こうなった原因は何にあるのでしょうか。職場では人がどんどん減らされ続け、その一方で業務は複雑化して、自分の業務をこなすだけでも精一杯になっています。周りの仲間のことを気にかけ、手伝う余裕も奪われています。

また、仕事は連携が大事なのに、ある人が自分の思うように動いてくれないと、その人にいらついたりしてしまいます。結果として、人間関係も、職場の空気も悪くなります。労働者の団結が破壊されているのです。このような職場にみんな息苦しさを感じているでしょう。

この状況を引き起こしたのは民営化であり、すなわち、この資本主義社会そのものなのです。Aさんがなぜ郵政を辞めることでなく、自殺という決断をしたかは、労働者の置かれる環境がどの職場でも変わらないからだと思えます。

## へ職場を変えられる

### のは労働者の団結

### した力だ！

Aさんの問題は決して特殊な事例ではありません。パラハラを受け、精神を破壊されている人は少なくありません。悲劇を再び起こしてはなりません。そのためにも、彼の死をなかつたことにさせて

はいけません。彼の死が教えてくれたことは、労働者は一人では生きられないということ。労働者が団結して行動し、会社と闘わなければ、職場を変えることはできないということです。

この問題に労働組合が取り組まなくていいのでしょうか。私たちは労働組合の態度にこだわりたいと思います。労働者の団結組織として会社と闘うのが労働組合です。会社の意思決定は労働組合の承認の上に行われます。組合が会社の施策に反対して闘えば、会社は決められないのです。組合員であろうがなかろうが、労働組合の態度によって現場はまったく違うものになります。

しかし、JP労組は「生産性向上で企業に尽くす」と、逆に労働者を会社に売り渡しています。組合の役員は会社の役員に出世し、労働者は会社と組合の双方から支配されている状況になっています。こんなのは絶対におかしい！

今こそ職場を労働者の手に取り戻していく闘いを始めましょう。労働者を決して一人にさせず、共に闘う労働組合をつくりましょう。「労働者こそ社会の主人公」であり、労働者が働いているから郵便が回っているのです。このような誇り高い労働を奪い返す闘い、私たちはその先頭に立ちます。ともに闘いましょう！



**団結して闘おう！**